

Heartwarming Letters
of
Love

日本一

心のこもった

恋文

*
20世紀最後のラブメッセージ

◆ 秋田県二ツ井町 編

Heartwarming Letter

一心のこころ
たすけ
文

江苏工业学院图书馆
藏 章

日本一心のこもった恋文 20世紀最後の
ラブメッセージ

編者 ● 秋田県二ツ井町

©1999 Akiaken Futatsunimachi

Printed in Japan

発行日 ● 一九九九年二月一〇日 第一刷発行

発行者 ● 安藤龍男

発行所 ● 日本放送出版協会

東京都渋谷区宇田川町41-1 〒150-8081

電話番号 03-3780-3318 (編集)

03-3780-3339 (営業)

振替 00110-149701

印刷 ● 三秀舎

製本 ● 石津製本所

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

図へ日本複写権センター委託出版物

本書の一部または全部の無断複写（コピー）は、著作権法で認められた場合を除き、著作権侵害となります。

目次

◆日本一心のこもった恋文◆20世紀最後のラブメッセージ

❀きみまち恋文大賞

消えた夫

佐藤貞子

●
8

◎きみまち恋文優秀賞

光を失ったあなた

村野京子

●
14

TOMI（とみ）へ

久保川賢一

●
17

ありがとうの意味

荒木艶子

●
20

今日もボクは生きている

伊東貞寿

●
23

悠太へ

菊池眞知

●
26

仮装人物

今井節子

●
29

書かずにいられないの

高野敬子

●
32

私の思いを壊して下さい

奥野保子

●
35

チヨコバナナまん

平野未奈

●
38

約束

細江隆一

●
41

◎佳作九〇編

金子健二 ●46	藤井明美 ●72	伊佐地千恵 ●98	田口ミネ ●124
山下和子 ●48	佐々木 龍 ●74	舛田水保子 ●100	内藤緋紗 ●126
吉澤美奈子 ●50	池端俊希 ●76	西澤咲香 ●102	トンブソン 厚子 ●128
福田 翼 ●52	渡瀬節雄 ●78	古賀理恵子 ●104	田添香奈子 ●130
谷口直之 ●54	相馬孝洋 ●80	桑田真琴 ●106	福田和美 ●132
遠山郁子 ●56	松島美由紀 ●82	安藤知明 ●108	小西晴香 ●134
朝葉 萌 ●58	井上淑恵 ●84	久保田紀子 ●110	三橋麻耶子 ●136
金城以久子 ●60	嶋田れみい ●86	森 かおる ●112	篠井きみ子 ●138
増村 久 ●62	渡辺幸夫 ●88	樋口真子 ●114	森永昌雄 ●140
坂本富士 ●64	浅倉陽子 ●90	蒲谷順子 ●116	宮本ひかる ●142
トリスゴッ ン・ヤーダ ●66	浅田真由美 ●92	市原美架 ●118	林 友恵 ●144
上田キクコ ●68	高橋優子 ●94	佐竹弘江 ●120	齊木麻衣子 ●146
木村陽一 ●70	岩切裕子 ●96	奥村利奈 ●122	丹 陽子 ●148

永和里佳子	●	150	山岡涼子	●	170	小磯明美	●	190	江藤敬一	●	210
小松真弓	●	152	樋上実肖	●	172	山本雅代	●	192	武口幸雄	●	212
堀越美佐	●	154	嘉瀬陽介	●	174	大賀清史	●	194	岩井由美	●	214
鈴木祐子	●	156	山中砂智子	●	176	藤本哲也	●	196	青木里江	●	216
田中こう	●	158	河上知子	●	178	荒井亜由子	●	198	小松郁恵	●	218
成田若子	●	160	佐塚 寛	●	180	松本眞美	●	200	荒 絵美子	●	220
栗賀将樹	●	162	藤田美香	●	182	西村祐正	●	202	難波芳江	●	222
竹下 文	●	164	池田 繭	●	184	山内のり子	●	204	桜井美和	●	224
森 智子	●	166	伊藤隆文	●	186	大島恵理子	●	206			
溝口のぶ	●	168	高山朋和	●	188	浅沼博美	●	208			

◆審査委員から 内館牧子・佐藤嘉尚・島森路子・白鳥邦夫・西木正明

◆あしがき ニツ井町長 丸岡一直 ● 237

◆編集協力 アワ・プランニング ◆装幀Ⅱ代田 奨・三津濱三栄子 ● 228

「第五回きみまち恋文全国コンテスト」の
審査委員は次の五氏である。

内館牧子（脚本家）

佐藤嘉尚（編集者）

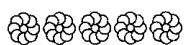
島森路子（編集者）

白鳥邦夫（評論家）

西木正明（作家）

また、本書の掲載作品の表題は、概ね編集部で付した。
なお、年齢は応募時のもの。

作品は原則として、明らかな間違い以外は原文通りとした。



き
み
ま
ち
恋
文
大
賞
(郵政大臣賞)

消えた夫

佐藤貞子

京都府・七九・無職

寒かった冬が過ぎ、暖かい日ざしの初春を迎え、二歳の子供とお腹に八カ月の子供を授かつてる最中、あなたは突然、

「満州に行って金もうけをしてみたい、きつと迎えにくるから待ってくれ」

と一言の言葉を残して、満州へ行ってしまいましたね。何もわからない私は二歳、今日着くか、明日かしらと郵便受けを見ては、届かない手紙を待ち続けましたよ。

あなたが残してくれた弘明、由起子は、日毎可愛らしくなり、

「早くこの子を抱いて下さい」

と神に祈り続けました。

一カ月後、待ちに待った一通の手紙が届きました。満州の消印のついた手紙には、

「住所と仕事が決まったら、かならず迎えにいくから待ってくれ……」

封筒の裏面に住所と名前がなくても、中の手紙はあなたの書いたもの。かならず迎えにきて下さると信じて、ただひたすら待ち続けました。

しかし、それっきりあなたからの便りはなく、七年の歳月が流れ、子供も学校に行くまでに成長しました。可愛い我が子に、

「お父さんは……」

と聞かれても、

「お仕事。今に帰ってくるからね」

と三人で空をながめ、待って待って待ち続けました。

その七年後に、あなたの友人の鈴木さんにばったり会いました。

鈴木さんは七年前のことを話してくれました。

「召集令状がきましたので、満州に行きます」

という鈴木さんに、あなたは、

「満州に着いたら、この手紙をポストに入れてくれないか」

と頼んだそうですね。満州の消印だった訳です。

鈴木さんは平謝りに謝られて、あなたが初めて満州に行っていないことが分かりました。

その時の悲しみは絶望のどん底につき落とされたような、再び立ち上がれないほどでした。

あなたを信じて待ち続けていた私は、何と純粹に憂い続けていたのでしょうか。しかし今は、神様をあなたと思い、うらむこともなくなりました。

あれから六〇年の歳月が流れ、子供、孫も結婚し二六人の大家族に恵まれて、健康で幸せな余生を送っています。

日本のどこかで、あなたが幸せに暮らしておられることを陰ながら祈っております。



き
み
ま
ち
恋
文
優
秀
賞
(東北郵政局長賞)

光を失ったあなた

村野京子

山口県・四〇・会社員

「気をつけて行けよ」

毎朝、玄関先で声をかけてくれるあなた。そんな元気な声を背に、私は会社へ向かいます。金木犀きんもくせいの香りにふと足を止め、大きく深呼吸して、空を見上げました。

もう、あれから一年経つのですね。

「京子の顔が見えない」